

むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。  
ある日のこと、とってからおもちを七つももらいました。

おじいさんとおばあさんは喜んで、さっそくおじいさんがひとつ、ぺろりと食べました。  
おばあさんもひとつ、ぺろりと食べました。

またおじいさんがひとつ食べ、おばあさんがひとつ食べました。

それからまた、おじいさんがひとつ食べ、おばあさんがひとつ食べました。

おもちはあとひとつになりました。

おじいさんが、

「おばあさん。この最後のひとつは、だんまりくらべをして、勝ったほうが食べることに  
しないか」といいました。おばあさんは、

「そうだね。そうしよう」と、賛成しました。

そこで、ふたりはじつとだまりこみました。やがて日が暮れて夜になりましたが、それ  
でもふたりは、じつとだまっています。いっこうに勝負がつきません。

そのうち、おじいさんは、だまっているのがたいくつになんてきて、もう寝ようと思っ  
て、ふとんにもぐりこみました。おばあさんも、おじいさんのとがりにもぐりこみました。

夜中になると、そこへ、どろぼうが入ってきました。おじいさんとおばあさんは、ふと  
んの中で、たいへんなことになったと思いましたが、それでも、じつとだまっています。

どろぼうは、だれもいないと思って、家じゅうの物をぜんぶふるしきに包んでしまいま  
した。そして、出ていこうとして、ひよつと見ると、お皿の上におもちがひとつのってい  
ました。どろぼうは、おもちに手をのばしました。そのとたん、おばあさんが、

「こら。どろぼう」とさげびました。

どろぼうは、びっくりぎょうてんして、ふるしき包みを放りだして、逃げていってしま  
いました。

おじいさんは、

「だんまりくらべは、わしの勝ちだな」といって、最後のひとつをおいしそうに食べてし

まいましたとき。

おしまい

出典

『語りの森昔話集2ねむりねっこ』村上郁再話／語りの森